



執筆者

黒田 友子

くろだ ともこ

やさしいコミュニケーション協会 代表理事

山口県宇部市出身。大阪外国語大学国際文化学科日本語専攻を卒業。一般社団法人やさしいコミュニケーション協会代表理事。日本語教師／やさしい日本語アドバイザーとして自治体や民間企業、医療機関等で講師を務め、「やさしい日本語」の普及・啓発活動を行う。

感染症情報をどう伝えるか

「やさしい日本語」の視点から

出入国在留管理庁によると、2023年3月末時点で307万5213人の在留外国人が日本で暮らしていて、この数は今後も増えていくと言われています。在留外国人の多くは、日本語でのコミュニケーションに困難を抱えています。日本語を話す時や読む時に難しさを感じている人がたくさんいらっしゃいます。今回は「読む」ことに焦点を当ててお伝えしたいと思います。

ある調査*では、在住外国人で日本語の書類が難しく読めないと思ったことがある人は93.7%もいました。これは、日本語がひらがな、カタカナ、漢字など複数の文字を組み合わせて使用する、世界的にも珍しい言語だからです。日本語を母語とする私たち日本人にとって、それはあたり前なので難しいと気づきにく

いのですが、外国人にはとても難解です。また、他にも難しい日本語としてよくあげられるのは、漢語や敬語、略語、和製英語、擬態語・擬音語などです(表)。私は以前、親子留学でフィリピンに滞在していたのですが、屋内スケート場を利用する際の誓約書にイラストなどの視覚的な情報がなく、英語がびっしり書かれていたのを見て、読みたいと思えませんでした。当時の私と同じような気持ちを抱えて暮らしている外国人が皆さんのすぐ近くにいます。

特に医療分野の日本語の多くは、日本人にとっても難解です。

例えば日本語学習者が「難しい」と話す表現に「様子をみましょう」と「安静にしましょう」があります。この表現を聞くと、何をしたらいいかわからないそうです。皆さんは、これらの言葉を伝える時、相手にどんな行動をとってほしいと思っていますか？ 知識に違いがあると想起することに差があるので、その差をわかりやすい言葉を使って埋める必要があります。

コロナ禍を通して、医療従事者と非医療従事者とが力を合わせて感染症に立ち向かうことがとても大切なことだと痛感しました。皆さんの思いを非医療従事者に伝える言葉は、わかりやすい方が受け取ってもらいやすく、行動を促しやすくなります。そのわかりやすい言葉を選ぶ時のヒントが「やさしい日本語」です。

「やさしい日本語」のポイントは、表に

表 日本語を読むとき、難しいと思うこと*
n=205 (複数回答可)

難しい漢字の言葉	77.6%
敬語	61.0%
略語	41.5%
擬態語・擬音語	41.0%
あいまいな言葉	33.2%
カタカナの言葉	25.4%
ローマ字	4.4%
その他	1.0%

書かれているような外国人が難しいと感じる言葉や表現を避けることです。難しい言葉を使わないようにして、より簡単な他の言葉に置き換えると伝わりやすくなります。

実は、日本語の難しさに困難を抱えている人は日本人の中にもいます。日本語を母語としない聴覚障害者、知的障害者、発達障害者、子どもやお年寄りなど、さまざまな人たちがわかりやすい言葉を求めています。

私は日本語教師であり、やさしい日本語アドバイザーなので、外国人患者さんとのコミュニケーションに「やさしい日本語」を使いましょうとお伝えしています。私はどんな時でも外国人の母語で対応ができるようになってほしいと思っていますが、現状、彼らの母語のすべてに対応することはできていません。

日本語を操ることは外国語を習得するよりもずっと簡単なはずですが、「やさしい日本語」をぜひ使ってみてください。

*東京都つなぎ創生財団「やさしい日本語を活用した在住外国人への情報伝達に関する調査報告書」より